第２回　BS 松竹東急放送番組審議会　議事概要

BS 松竹東急株式会社

１　開催日　　2022 年 10 月 13 日（木）　15:00～16:20

２　開催場所　　東劇ビル内会議室

３　委員の出席

委員総数　　７名

出席委員数　７名：

- 大江 志伸 委員長　　江戸川大学名誉教授メディア・コミュニケーション学部、読売新聞社社友（元論説委員）
- 三輪　記子 副委員長　　弁護士
- 朝原　雄三　　映画監督
- 伊藤　信太郎　　衆議院議員、元外務副大臣
- 関口　裕子　　元キネマ旬報編集長、ライター
- 中村　梅玉　　歌舞伎俳優
- マーティ・キーナート　　仙台 89ers 相談役、仙台大学上級顧問アドバイザー 東北大学総長顧問

４　放送事業者側出席者　　６名：

- 橋本　元　　代表取締役社長
- 鵜澤　由紀　　取締役（編成局担当）
- 笹島　光晴　　取締役（制作局、マーケティング・コミュニケーション局、管理局担当）
- 斎藤　寛之　　編成局長/制作局長
- 松野　俊一　　編成局次長/放送番組審議会事務局長
- 湯沢　華子　　管理局経営企画部マネージャー/放送番組審議会事務局

5　議事概要

（1）報告事項

斎藤編成局長/制作局長から以下について報告した。

・2022 年 4～9 月の放送番組の種別及び種別ごとの放送時間について

・2022 年 10 月クールの基本編成及び番組紹介

（2）番組審議

対象番組：「号外！日本史スクープ砲 基本は走 らなかった？！飛脚の真実」

（2022 年 9 月 4 日放送分）

- 先生役の男性 MC と生徒役の女性 MC について、若い女性がいつも聞き役に回ることが固定化されており、あまり新しさが感じられないように思う。また、それをよく思わない方もいらっしゃるのではないか。
- 玄人と素人/先生と生徒という構図は、歴史という少し難しいテーマを扱う上で視聴者のハードルを下げていくために、長く放送で使われてきた演出なので、これも 1 つの手段ではあると思う。
- 先生が何も知らない生徒に一方的に教えるスタイルというより、歴史をある程度知っている生徒役とのやりとりをしながら、先生役は生徒でもわからないような詳細部分を教えるといった形もよいのではないか。
- 今回のテーマである「飛脚」については、米国にも類似のシステムがあり、他国の文化を調べて内容に入れても面白いと思う。
- この番組をバラエティ寄りにするのか、教養寄りにするのかは考えたほうがいいと思う。個人的にはバラエティ寄りの方が BS 松竹東急らしいと思う。
- 地方の博物館の学芸員の方を取り上げたのは良かった。堅い研究者という取り上げ方というより、その地域の物知りの方といった形で親しみが湧き BS 松竹東急の足回りの軽い局ならではの視点で評価できる。
- CG 再現は、精度が今ひとつと思った。説明資料として使うなら、歴史的文書の現物をクローズアップするなどの方が良いのではないか。
- スクープや特ダネといった言葉は、現代のスキャンダルなどで使われる言葉であるため、歴史を扱う場合にはあまり合わないのではないか。
- 今回の取り扱われた「佐々木壮助」はほとんどネット情報では見当たらなかった。ネット検索では辿れないテーマをきちんと取り上げて調査した点は高く評価している。

その他のご意見

- 「滝沢歌舞伎」は、SNS でも大きく盛り上がっており、とても良かった。SNS 上で、

BS 松竹東急の視聴方法を視聴者同士がやりとりしている姿も見られ、視聴者取り込みの観点からも良いと思う。

・ 映画は吹替版の方が多いが、字幕版も見られるようにしたほうがいいのではないか。